

令和五年度 大学院人文科学府博士後期課程

第2期編入学試験問題

（日本史学）

次の一～四の設問に解答せよ。但し、解答は全て縦書きとすること。

〔二〕 左に掲げた史料は、「満濟准后日記」応永二十一年（一四一四）六月十八日条の記事である。

これに関する設問（一）～（四）に答えよ。

十八日 庚申、天晴、公方様渡御鹿苑院云々、宗像前大宮司氏経来、対面、若宮庄事如此間申付了、補任状詞、聊依申請子細、加永代言、但於此状ハ下向以後令見探題可返進云々、仍請文在之、松橋方ニ預置也、

（一）全文を読み下し文に改めよ。仮名遣いは、現代仮名遣いとする事。

（二）文中の「公方様」「探題」は誰を指すか、答えよ。

（三）文中の「補任状」と「請文」はいかなる内容の文書であったと考えられるか、述べよ。

（四）「満濟准后日記」は、右記の記事を初見として、九州関係の記事を豊富に含んでおり、特に永享年間前半（一四二九～三五年）に集中する。その理由について、満濟の立場に鑑みながら、考えるところを述べよ。

〔三〕 左（次頁）に画像として掲げた史料は、「蜷川家古文書」（国立公文書館蔵）のうちの一通である。これに関する設問（一）～（三）に答えよ。

（一）現行通用の字体を用い、全文を翻刻せよ。改行は原文通りとし、旧字・異体字は原則として常用漢字を使用し、必要に応じて句読点・傍注・記号を付すこと。なお、端裏書、および蔵書印は省略してよい。

（二）本文一行目に登場する人物は、何を意図していたと考えられるか。当該人物の職制上の地位、および端裏書に「河上奉書」とあることに鑑みて述べよ。

（三）充所の人物は幼年でありながら、建前として、公的な機能を担うことを期待されている。この背景にはいかなる政治的事件があったか、知るところを述べよ。

著作権上の理由により、  
WEB 公開版では問題文より  
削除した。

〔三〕左に画像として掲げた史料は、『中務大輔家久公御上京日記』（東京大学史料編纂所蔵）の天正三年（二五七五）七月十三日条である。これに関する設問（一）～（三）に答えよ。

（一）現行通用の字体を用い、全文を翻刻せよ。改行は原文通りとし、旧字・異体字は原則として常用漢字を使用し、必要に応じて句読点・傍注・記号を付すこと。

（二）当該の記事は、島津家久の帰路（日本海と九州西部を結ぶ航路）における出来事を伝えるものである。家久一行が七月十三日時点で滞在していた地域はどこであると考えられるか。また、当該の地域を取り巻く国際的環境について簡潔に述べよ。

（三）この日記は紀行文学の体裁に倣ったものとみることができる。中世から近世初期にかけての九州に関わる紀行文学としては何があるか、知るところを列挙せよ。また、紀行文学を地域史研究の史料として、どのように活用しうるか、考えるところを述べよ。

著作権上の理由により、  
WEB 公開版では問題文より  
削除した。

〔四〕左（次頁）に画像として掲げた史料は、「籠手田文書」（前田育徳会尊経閣文庫蔵）のうちの一通である。これに関する設問（一）～（四）に答えよ。

（一）現行通用の字体を用い、本紙・封紙（懸紙）の全文を翻刻せよ。改行は原文通りとし、旧字・異体字は原則として常用漢字を使用し、必要に応じて句読点・傍注・記号を付すこと。

（二）本紙の料紙の形態、および封式について、画像で観察できるところを述べよ。

（三）封紙（懸紙）の天地には横方向の折り目に加え、「×」字状の折り目が残る。この封式を何と称するか、答えよ。また、充所の人物の地位に鑑み、当該の封式の用法について、考えるところを述べよ。

（四）当該の史料は無年号文書である。年次を比定するにあたり、いかなる方法がありうるか、考えつくかぎりを列挙せよ。

著作権上の理由により、  
WEB 公開版では問題文より  
削除した。